

令和5年度

学校評価報告書



綾瀬市立綾南小学校

※グラフ凡例は、以下の通りです。合わせてご覧ください。

	そう思う
	ややそう思う
	あまりそう思わない
	そう思わない
	分からない

※アンケート実施期間

11月27日～12月23日

※授業のユニバーサルデザインとは

特別支援教育の理念や手法を取り入れ、全員の子どもが、
「楽しく、分かる、できる」工夫が配慮された授業のこと。

1 学校は、「よく学び（実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」）」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。

学校の取組

今年度も授業のユニバーサルデザインに関する校内研究に取り組みました。児童のつまずきをもとに授業の工夫や改善を図り、児童一人ひとりがより深く考えたいと感じる授業を目指して取り組んでいます。また、全国学力・学習状況調査で本校の課題に挙がっている基礎計算、漢字の力をつけるため、毎週金曜日に朝学習の時間を設定し、基礎基本の学習を繰り返し行い、学力向上に向けて取り組みました。

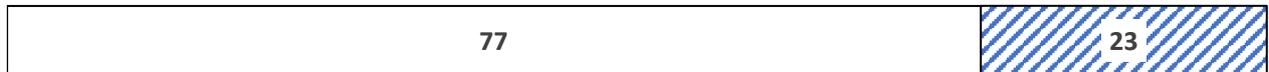
児童 設問 「進んで学習に取り組んだ。」



保護者 設問 「お子さんは、進んで学習に取り組んでいる。」



教職員 設問 「学校は、「よく学び（実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」）」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。」



今後に向けて

児童の9割が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、昨年度よりもポイント数が微増しています。教職員が指導の工夫や改善を組織として継続的に取り組んできたためと考えられます。今後も児童のつまずきに目を向けた授業改善を行い、児童や保護者が学習意欲の向上を実感できる授業づくりを引き続き目指していきます。

2 児童は、学校行事やクラブ活動、委員会活動、係活動に積極的に参加している。

学校の取組

運動会やクラブ・委員会活動、学級の係活動では、児童の話合い活動を重視したり、児童が役割分担を通して主体的に行動できるように支援したりして、行事や特別活動の活性化を図っています。異学年交流活動の「にこにこタイム」は、どの学年の児童も楽しく交流できるように、教職員の支援のもとで高学年が中心となって運営しています。

児童 設問 「運動会、遠足、にこにこタイムなどの活動に進んで取り組んだ。」



保護者 設問 「お子さんは、運動会、遠足、にこにこタイムなどの活動に楽しく参加している。」



今後に向けて

運動会やクラブ・委員会活動、学級の係活動では、児童が主体的に行動できるように支援し、行事や特別活動の活性化を図っています。異学年交流活動の「にこにこタイム」では、どの学年の児童も楽しく交流できるように、高学年が工夫し児童主体で運営しています。今後も、学校行事や特別活動、異学年交流活動の取組を通して、児童が安心して過ごせる学校環境を目指していきます。

3 学校は、「よく考え（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」）」を育てる指導を積極的に行っている。

学校の取組

自ら考える力・良好な人間関係の構築を実現するために、教科指導、道徳教育、読書指導など教育活動全般を通して充実を図っています。また、異学年交流「にこにこタイム」や行事、特別活動を通して、児童一人ひとりが互いに認め合う温かい学校づくりを目指しています。

児童 設問 「あいさつをよくし、友だちと仲良く協力できた。」



保護者 設問 「お子さんは、あいさつをよくし、友だちと仲良くしている。」



教職員 設問 「学校は、「よく考え（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」）」を育てる指導を積極的に行っている。」



今後に向けて

互いに認め合うことは児童同士の人間関係をよりよいものにし、学習や生活において友だちと協力して行動する経験を重ねることが、楽しい学校生活の基盤となります。各教科の時間、学級活動、児童会活動、異学年交流、行事などを通して、互いを認め合い、協力して行動しようとする心情を育てる取組の充実をさらに図っていきます。

4 児童は、友人や先生との学校生活に満足している。

学校の取組

人との関わりを大切にし、互いを認め高めあう人間関係を築き、一人ひとりが大切にされ、認められる学校づくりや学ぶ楽しさを感じられる学級づくりに努めてきました。異学年交流を通して、児童同士の良好な関係をさらに形成できるようにするとともに、普段の学習の中で「授業のユニバーサルデザイン」を取り入れながら進んで学べるよう指導にあたっています。

児童 設問 「学校生活は楽しい。」



今後に向けて

学校生活を楽しい・やや楽しいと思っている児童が8割を超えており、学級が一人ひとりを認め合い居心地のよい安心できる場所作り、仲間作り、授業作りを行い、支援したことが反映されていると思います。しかし、その反面、悩みや不安を抱えている児童もいます。どの児童も笑顔で学校生活が送れるように、毎日の観察や声かけ、授業改善を積極的に行い、支援していきます。また、児童が教師に相談しやすい雰囲気づくりにも努めていきます。

5 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。

学校の取組

児童の悩みや不安を早期発見・早期対応するために、毎月スクールアンケートを実施しており、その結果をもとに支援や指導にあたっています。また、職員会議や児童指導・支援会議では配慮の必要な児童の情報共有を図り、望ましい生活習慣や行動規範についての共通理解に努めています。

保護者 設問 「学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。」



教職員 設問 「学校は、いじめの早期発見・再発防止に努めている。」



今後に向けて

6割近くの保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、いじめの早期発見・再発防止の取組が少しずつ理解されてきています。しかし、教職員と保護者の認識の差が大きいため、保護者へのより一層の情報発信に努めていきます。また、いじめ案件については、保護者との連携を大切にし、学校、家庭が一体となって取り組んでいきます。

6 学校は、「高めあう子（学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等）」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。

学校の取組

学校教育目標の重点目標に「健やかな身体」とある通り、健康で体力のある元気な児童の育成を目指しています。晴れている日は積極的に外遊びをするように声かけをしています。体育科の授業では自分に合った目標を決め、目標の達成のために互いに見合う活動を多く取り入れています。係活動や委員会活動では、集団の一員として、自ら行動できるような支援を行っています。

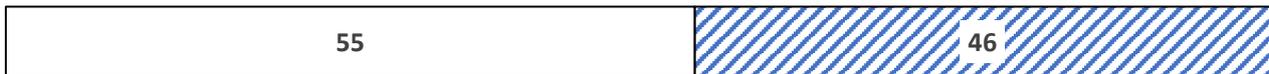
児童 設問 「健康や安全に気をつけて、楽しく学習できた。」



保護者 設問 「お子さんは、健康や安全に気をつけて、学習や生活ができています。」



教職員 設問 「学校は、「高めあう子（学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等）」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。」



今後に向けて

約9割の児童が、健康や安全に気をつけて、楽しく学習ができています。しかし、1割の児童が否定的な回答をしているので、学校全体で課題意識をもちながら、児童への対応を検討していく必要があります。自分だけを大切にするのではなく、友だちのこと考えた言動や行動を見直し、日々の学級指導で児童たちへ伝えていきたいと考えています。

7 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。

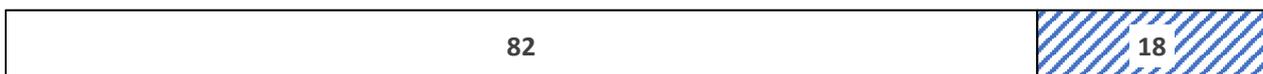
学校の取組

児童が安全に学校生活を送れるように、毎月施設や設備の安全点検、整備を行っています。異常を発見した際には、教育委員会や校務作業員と連携しながら、児童が安全に学校生活を送れるように対応しています。また、PTAや地域の方々の見守りパトロールなど、地域と連携した児童の安全確保にも努めています。避難訓練では、年間を通して様々な想定や時間帯などを考え、避難の仕方が身に付くよう工夫しています。

教職員 設問 「学校は、児童の安全のための指導を行っている。」



教職員 設問 「学校は、児童の安全のために施設の点検・整備に取り組んでいる。」



今後に向けて

児童の安全のため、緊急時の避難の仕方については、今後も様々な場面を想定して指導していきます。廊下や階段の歩行については、児童の事故に繋がらないように、日頃から児童の様子を丁寧に観察し、学校全体での指導を続けていきます。不審者対応については、教職員向け研修を再検討していきます。職員全員が、しっかりとした不審者対応ができるよう研修方法なども見直していきます。

8 学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。

学校の取組

児童一人ひとりの実態に応じた支援を行うため、教育相談コーディネーターを中心にチームによる支援体制を整えています。また、学習支援者やスクールカウンセラー、日本語指導ボランティアを配置し、カウンセリングや個別指導、チームティーチング等に取り組みました。日頃から学校全体で児童の情報を共有し、全職員で目を配り、ニーズに応じた支援を行うことができるように努めています。

教職員 設問 「学校は、一人ひとりの児童に応じた、きめ細かな指導を工夫しながら行っている。」



今後に向けて

教職員、保護者、児童本人のニーズに応じてケース会議を開催したり、面談を行ったりしながら、チームによる組織的な対応を行ってきました。今後も、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を図り、全職員で児童情報を共有しながら適切な支援を行うことができるように努めていきます。

9 学校は、校長を中心とした運営組織となっている。

学校の取組

校長の学校経営計画の下、総括教諭を中心とした4グループに分かれ、縦と横の連携を図りながら学校運営上の様々な業務や課題に取り組んでいます。年度初めに各グループで学校教育目標を具現化するための取組を話し合い、活動計画として戦略マップにまとめました。そして学期ごとに振り返りを行い、全教職員が組織の一員としての自覚や責任をもって活動を進めています。

教職員 設問 「学校は、校長を中心とした運営組織となっている。」

86

14

今後に向けて

校長の学校経営計画の下、学校教育目標を念頭に学校運営を進めることができました。今後も校長を中心とした運営組織の中、前向きに業務にあたるとともに、カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、各グループを軸としたPDCAサイクルを確立させていきます。そしてよりよい学校づくりに努めていきます。

10 学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。

学校の取組

日頃から学年で教材研究を行い、職員同士協力して授業力向上に努めています。校内研究の公開授業に向けて、学年やブロックで話し合いや事前授業を行い、教職員全体で研究協議を行っています。視点を定めて授業について意見交換したり、講師の講義を聞いたりすることで、授業力向上に取り組んでいます。また、近年の教育課題について職員研修を行い、教職員としての知識、見識を高め、指導力の向上に日々努めています。

教職員 設問 「学校は、教職員の力量を高めるために校内研究の取組に力を入れている。」

59

41

教職員 設問 「学校は、教職員の力量を高めるために研修に取り組んでいる。」

64

36

今後に向けて

今後も校内研究を通して、教師間の指導力向上、共通理解を図るとともに、日々の授業に生かすことができるようにしていきたいと思います。また、教育に関する最新の動向や教職員のニーズをもとに、児童の指導に反映されるよう研究・研修計画を立案していきます。実施形式についても講義形式だけでなく座談会形式や実技講習など、教職員も意欲をもって学び続け、力量を高められるような内容となるよう工夫や改善に努めます。

1 1 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。

学校の取組

毎月の職員会議や年間6回実施している児童指導・支援会議で、児童指導の情報交換の場を設けています。担任、担任外、養護教諭等それぞれの立場から児童の様子についてきめ細かく情報を報告し、共通理解を図って児童の見守り、指導を行う体制作りに努めています。また、スクールカウンセラーとの面談や特別支援学校の巡回相談などを利用し、より効果的な支援を行えるように努めています。

保護者 設問 「学校は、一人ひとりの良さを大切にされた指導を行っている。」



教職員 設問 「学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長に向けて工夫した指導を行っている。」



今後に向けて

約70パーセントの保護者が、「そう思う」「ややそう思う」と回答しています。保護者と教職員の認識の差があるため、今後も学校全体で、きめ細かい情報交換や共通理解を図り、児童一人ひとりのよりよい成長に向けて、適切な支援を行えるように努めていきます。

1 2 学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。

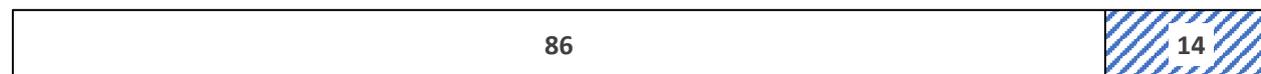
学校の取組

保護者や地域との連携を図ることは、学校の教育活動を行う上で重要だと考えています。保護者に向けては、学校・学年・学級便り、授業参観・懇談会、家庭訪問、個別面談、PTAの各種会議等により、学校の教育活動や児童の様子を具体的に伝え、理解が得られるようにしています。特に今年度は、学校だよりに学年の活動の様子を載せたり、土曜参観日に「親子ふれあい美化作業」をあてたりするなどの工夫をしました。

保護者 設問 「学校の様子を、授業参観や学校・学年・学級だより等で知ることができている。」



教職員 設問 「学校は、学校・学年・学級だよりなどで保護者に情報を提供し、連携を図る取組を行っている。」



今後に向けて

お便りや授業参観・懇談会、家庭訪問、個別面談、PTAの各種会議等を通して、学校の教育活動や児童の様子を具体的に伝えることに努めました。来年度も学校だよりへの学年の活動の掲載、土曜参観日の「親子ふれあい美化作業」を実施するとともに、「学校へ行こう週間」の実施など、地域学校協働活動を更に推進していきます。そして、保護者や地域との連携を図っていきます。